



「シンプル」→「伝わる・わかる」→「つながる」→「安心」

# 学校だより

令和5年1月10日  
東京都立羽村特別支援学校長  
外山 裕介



## 新年あけまして おめでとうございます

新しい年が素晴らしい年となりますよう皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

2学期終業式と3学期始業式では児童・生徒の皆さんに、「一年の大きな節目でもあるこの時期に、しっかりと自分を振り返りましょう。そして、なりたい自分を見つけて、そこに向かって変化していきましょう。」と伝えました。



## 大きな節目と小さな節目

私は「節目」という言葉が大好きです。それは、自分を変えるチャンスだからです。カナダの精神科医エリック・バーンさんは、「過去と他人は変えられない。あなたが変えられるのは自分自身と未来だ」といいました。「自分を変えられるのは、自分だけ。」ということです。だからこそ、なかなか変わることが難しいのです。昨日までの行動パターンを変えることは、例えば小さなことでも、恥ずかしかったり、すぐにくじけてしまったりするものです。親や教師が子供に対し、「やめなさい。」「成長しなさい。」といくら言っても子供を変えることはできないのです。言い換えれば、教育とは自分で変わる人を育てていくということになるでしょうか。

私が「節目」という言葉を大好きになった理由は、「小さな節目」をたくさん意識するようになったからです。今回うまくいかなかったら、次の節目で気持ちを新たに頑張れば良いと思ったからです。幸い我々の生活にはたくさんの節目があります。年の変わり

目、年度の変わり目、学期の変わり目の長期休業ではリセットも可能です。「さて来週からちゃんとやろう。」などと、変化をちょっと先延ばしにして、心構えをして再挑戦するのも良いと思います。

特に親子や兄弟、親しい友達、教師と教え子など、身近な人との接し方を変えることは難しく、一度失敗すると、「やっぱり無理。」といった気持ちになってしまったりします。大事なことは「あきらめない」こと、「もう一度、試してみる。」ことです。そして、まずは自分たちが変わることを意識してみることが、子供たちを育てる上で大切なことかもしれません。

新学期

## 羽ばたき祭

先月に行なわれた「羽ばたき祭」には、2日(金)に274名、3日(土)には369名、2日間合計で643名もの皆様に御来校いただきました。時間制限やソーシャルディスタンス等、

(右上に続く)

様々な制限がありましたが、御協力いただきありがとうございました。



羽ばたき祭は子供たちにとって大きな成就感を味わえる学習の機会です。学習の成果を舞台や販売や展示といった形で発表するわけですが、「うまくできるかな。」「みんな喜んでくれるかな。」「ほめてくれるかな。」という期待が、子供たちをドキドキさせるわけです。このドキドキが大きいほど成就感も大きなものになります。

時代の流れと共に学校行事の形も変わってきています。様々な制限の中で、新しい形を模索しながら、子供たちが「がんばった。」「楽しかった。」と思える機会を増やしていけるよう努力していきたいと思います。



## 舞台発表のお話し

数年前に、ある保護者の方がお話ししてくれました。「舞台発表を本当に楽しみにしています。うちの子は小学校1年生の時は舞台上がるのも大変で、先生に手をつながれて、やっと舞台の端っこにいらしたのに、3年生になるころには、一人でみんなと並んでいたんです。しゃべることも演技することもできないのに、毎年毎年役割がありました。高学年になったら踊りみたいなこともするようになりました。この学年の中で、うちの子にもちゃんと役割や居場所があるんだな。毎年の舞台発表を見るときが、一番それを感じます。」



集団の中に自分の居場所や役割があることが生きる力の原点です。子供の成長を強く感じられる、舞台発表はとても素敵です。

## 高等部修学旅行の中止について

本校関係者間での新型コロナウイルスの感染拡大により、旅行出発の3日前に行事を中止するという事態となりました。皆様に多大なる御心配と御迷惑をおかけしたことをお詫びします。

12月に入ってからの本校の陽性者が70名を超えました。周りの都立校と比較しても、本校だけが異常に多い状況でした。校内での感染が疑われるケースは少ないのですが、今後も、濃厚接触候補者の特定において、厳密に行っていかなければなりません。

保護者の皆様の御理解と御協力をよろしく願いいたします。

学校だよりはHPにもアップされています。将来的に、学校だよりのオンライン配布の可能性も考え、スマートフォンでも読めるよう文章を2段組みといたしました。

感想等ございましたら、連絡帳等を通してお聞かせください。

